

しゅにんあいぎょうも 衆人愛敬を以て

—総合芸術としての能と松田存氏—

島村 眞智子

1. 「世阿弥忌の集い」の三十年
かすかな鈴りんのひびき、経文読誦、
低い唱和の声—こうして、「世阿弥忌の
集い」は始まります。

誰も総会とはお呼びにはなりません
でしたが、「世阿弥学会」の人々はみな、
毎年この年忌に集まりました。第一回は
平成3年(1991)ですから、もう、三十
年続いたことになります。

横浜寿徳寺で開催された第1回は、前年
結成の「世阿弥協会」が主宰でした。こ
の協会は、西一祥氏(当時日本大学国際
学部在職)を中心に、昭和63年(1988)
に発足した「世阿弥を読む会」を前身と
し、西氏が代表理事、松田存氏が理事を
務められました。平成5年(1993)西氏が
急逝されると、跡を承けて松田氏が代
表理事を継ぎ、平成6年(1994)、西氏の追
悼集として紀要『総合芸術としての能』
を創刊、平成7年(1995)には、「世阿弥
協会」が改組改称され、現在の「世阿弥
学会」が誕生しました。

松田氏は昭和60年(1985)より長く二
松学舎大学の教授を務める傍ら、『世阿
弥と能の探求』(新読書社 昭和47年)
より、『世子・猿楽能の研究』(新読書
社 平成3年)、『能楽遊歩道』(かり
ばね書房 平成22年)、『奈良絵本絵巻

抄』(新典社 平成27年)まで20余の著
作を出版されました。また、平成16年
(2004)には、日中人文社会科学学会設
立に参画、副会長のち顧問となられて、
平成20年(2008)河北科技大学に、張仕
英先生のご尽力を得て、能『猩々』と京
劇・川劇との共演を果たされるなど、広
く、能楽の理解と普及に尽くされてし
た。

学会の紀要『総合芸術としての能』
も、国境などにはかかわりなく、能楽に
ついての広い視座と多様な個性や考察を
求めました。

こうした研究と学会の進展のうちにも
、松田氏は早く逝かれた西氏を常に偲
び、学兄として、その穏やかで真摯な学
風を継承し、学会活動に生かそうと心掛
けられました。

世阿弥忌の集いでは、法要の後に、
シンポジウムが催されます。第一回
「世阿弥と禅—伝書と作品を中心に—」
・第十五回「アジアの中の能」・第
二十八回「ポール・クローデルと能」な
ど、毎回、設定されたテーマにより、分
析方法や専門分野、国籍にこだわりのな
い研究発表と、和やかで闊達な交歓があ
って、立ち寄る人々も自由でした。

ふと、参加された方がパネラーに、

「先生、こんなに真剣に質問しておられるのだから、もっと真っ直ぐこたえてやってくださいよ。」などと発言されても、あたたかく包み込む雰囲気が、シンポジウムにも、その後の懇親会にもありました。

2. 人 人にあらず 知るをもて人とす— 能楽を世界へ —

松田氏の能楽への理解と普及の活動は、一衣帯水の地中国に止まりませんでした。海外渡航歴は40余に及んでいます。

大学講演は、昭和57年（1982）アメリカオレゴン州セーレム市ウイラメット大学の日本をテーマとするシンポジウムに始まり、能楽の歴史のアウトライン、能装束・能面、能『葵上』・『船弁慶』・『高砂』・『隅田川』・『羽衣』などを紹介、カンザス大学、イタリアのベネチア大学、隣国韓国の全北大学などに及びます。最大のイベントは、平成9年（1997）ニューヨーク市立大学大学院で開催された、シンポジウム「世界の中の世阿弥と能」で、世阿弥学会から松田氏ほか5名、欧米各地からパネラーが参加、全容は、翌1998年CASTA出版から刊行されました。

能楽海外公演の文芸担当顧問としては、昭和58年（1983）リル・パリ・リヨンなど5都市に滞在し、1カ月余に及ぶフランス公演に同行するなど、親善・文化交流に参加し、昭和64年（1989）、昭和

29年以降の海外公演資料、『能楽海外公演史要』（錦正社）を刊行されました。

世阿弥生誕600年にあたる昭和38年（1963）、「世阿弥研究会」が上智大学教授ベニト・オルトラ二氏の研究室で開かれた時は、西一祥氏・後藤淑氏（当時昭和女子大学教授）・戸井田道三氏（能楽評論家）・本田秀男師（金春流能楽師）ほか、15名の方々が参集され、この縁は、オルトラ二氏がその後、ニューヨーク市立大学に移られ、演劇科の主任教授となってからも継ぎました。氏が編集発行された、世界の演劇に関する年次文献目録『I B T』のうち、日本演劇の文献目録は、平成2年（1990）から松田氏が担当されました。氏は合わせて、ニューヨーク公共図書館スペンサーコレクション所蔵の調査を行い、最晩年、その成果が絵巻抄として結実しています。

3. 草木国土悉皆成仏 — 能の祈り — 今年6月20日、松田存氏は逝かれました。

氏の寛容と温和には、真摯な能の祈りがありました。氏が育てた、世阿弥と能の光を慕い、夏草のように育つ素朴な人々の集いが、能楽を愛する世界の裾野にやさしく広がり、その静穏なさやぎが、いつまでも続くことを願ってやみません。

（作者紹介：能・伝統芸能教育研究者）